




考え



ウマとシカとが
くんずほぐれつ

弦楽器イルカ ⇒ 友人

メールありがとう。

震災の影響はほとんどないよ。

実際に旧正月を台南で過ごした社員もいたけど、レスキュー隊が家の近くに沢山ただけで、何も問題なかったと。

あれは違法建築のビルが倒れたという人災だ。

台湾は建築にかぎらず、安全を守るために法律を整えるということができていない。

さらに言えば、法律はあったとしても、それを守らせることができていない。

さらに言えば、国民性として先の事はあまり考えないので、将来を予想して安全策を取るという文化が非常に薄い。

政府、政治家はわかっていると思う。

台湾でリーダーシップを発揮するためには、レベルの低いところに合わせるしか無いという現状がある。

子供も歩いているような歩道を、バイクが普通に走っているような国だ。

しかも、マフラーがおかしいのか、爆音で。これはごくごく日常の風景。

日本だったら、よほど気合の入った不良でも、ここまでは普通はしないよね。

もちろん、これを取り締まろうと思えばできるはずだ。

罰金を取れば人的コストも回収できるだろう。

なぜ、政府はこれができないのか。

答えは、国民の支持が得られないからに違いない。

バイクが歩道を走ることを禁止したら、バイクを降りて手で押さなければならないため、非常に不便だと、反発が十分に予想される。

要するにそういう国だ。

そんな愛すべき台湾だけど、そろそろ任務を終えて、日本に帰国することになった。非常に寂しいよ。



台湾の状況ありがとう。とりあえず無事でよかった。

さてそんなひどい状況を一旦、見ないふりして今回は俺が考える「恋愛曲線」についてまとめようと思う。これは俺がずっと前から言ってることだしUにとっては今さらだけど、今まとめる意味があるような気がちょっとした。

まず、本題に入る前の導入として、割と流行の米津玄師『アイネクライネ』を読解する。

この歌詞の核心は、「誰かの居場所を奪い生きるくらいならばもう あたしは石ころにでもなれたならいいな」から始まって、「あなたが居場所を失くし彷徨うくらいならばもう 誰かが身代わりになればなんて思うんだ」って対になる部分を超えて、最後に「あなたの名前を呼んでいいかな」で終わるところだろう。

自分一人だけで生きてると、まあ自分なんて消えてもいいか、他人を振り回して生きるなんてイヤだ、って思うこともある。

でも、あなたという大切な他者が現れて「あたしの名前を呼んでくれた」り、自分を必要としてくれる。それが嬉しくて、自分からも「あなたの名前を呼んで」必要としたくなる。そのためには誰かの居場所を奪ったり身代りにするのも、見ないふりする。

すごくわかりやすく構造的に練られた歌詞だし、BUMP OF CHICKENの『オンリーロンリーグロリー』とか、RADWIMPSの『あいとわ』とかも思い出すね。

一カ所、『産まれてきたその瞬間にあたし「消えてしまいたい」って泣き喚いたんだ』って部分だけは個人的にちょっと気になるけど。詩的な表現として理解はするんだけど、赤ん坊の泣き声は絶対に「生きたい」であって、「消えてしまいたい」ではないと俺は思うから。

その「生きたい」って泣き喚いてたはずの口から、やがて様々な挫折を経て「消えてしまいたい」が出てくる成長の過程が文学なんじゃないかな。まあこれは別の話だね。

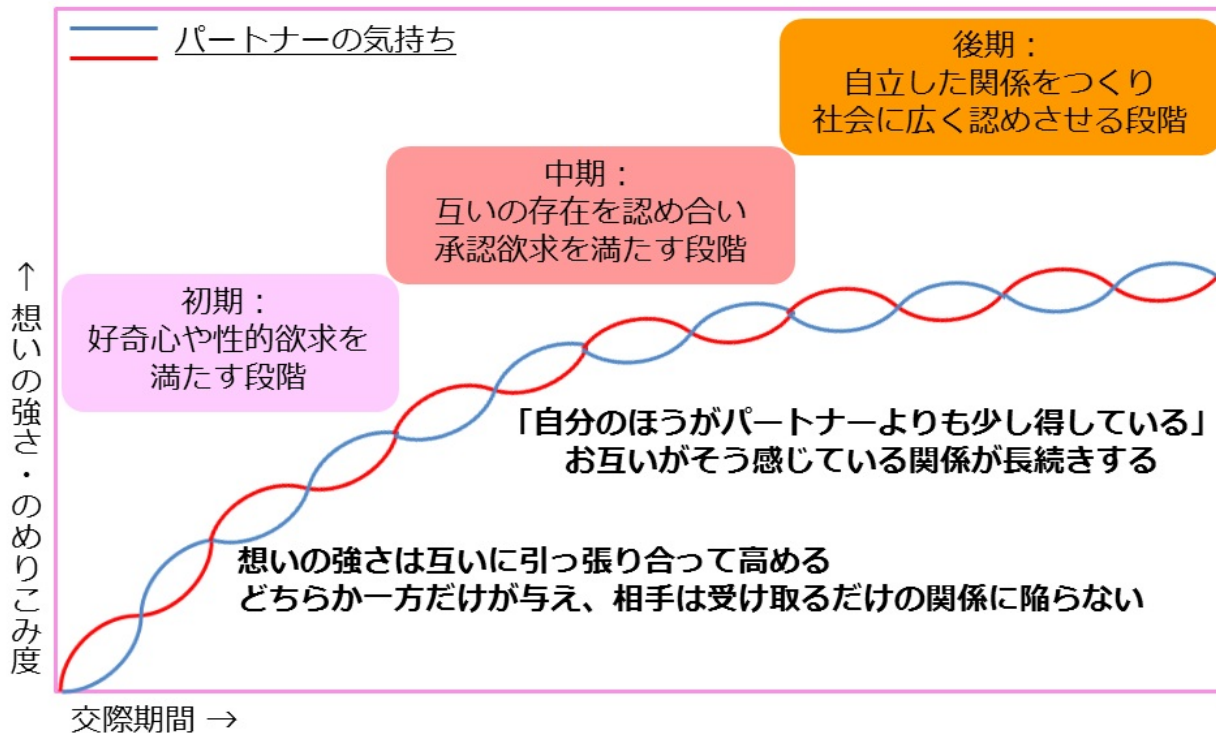
さてここから、本題の恋愛曲線につなげます。

一般論として、恋愛初期には男性のほうが女性より盛り上がりやすく、後期には女性のほうが盛り上がりやすいとか言われてて、それを恋愛曲線で説明されてるのは知ってる。

でも俺は「どうすれば良好に（冷え切らず）長続きする関係がつかれるか」ってことにしか興味ないから、理想の恋愛曲線について書く。

これは恋愛だけじゃなくて、友達や社会や人間関係全般に言える話だと思う。人が人と関係を成就させて長続きさせるためには、いくつかのルールがある。すごく常識的なギブ&テイクで、道徳の教科書に載っててもおかしくないと思ってる。

まず俺の考えを簡潔に図としてまとめると、下図のようになる。



この図は、3つの観点を一つにまとめたものだ。

1つ目の観点は、「長続きする夫婦は、自分のほうがパートナーよりも少し得している、と妻も夫も互いに満足感を感じている」という統計の結果だ。夫婦関係を良好に長続きさせるためには当然、背伸びしない、無理のない「等身大」の関係が望まれる。

自分だけが損していると感じ、我慢を強いられる関係は長続きしない。逆に自分だけが得しすぎていると感じても、互いのバランスが崩れたり、生活に無理が生じたりする。百万本のバラをあげたら絵かきだって破産するみたいにね。

2つ目の観点は、「恋愛の段階は、三つに分けられる」という理論だ。

初期は、互いに好奇心や性的欲求を満たす段階。

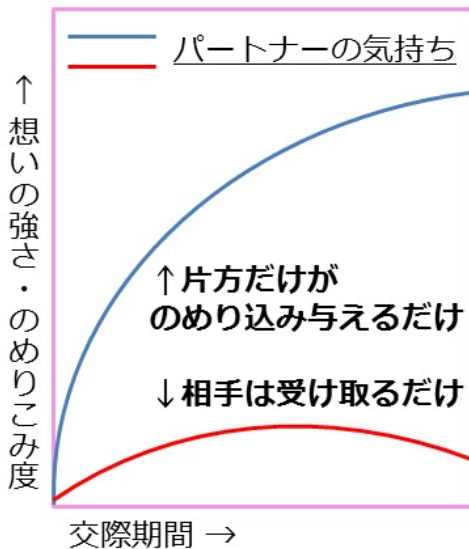
中期は、互いが互いの存在を認め合い、お互いがここにいていいという、承認欲求を満たす段階。

後期は、互いが認め合った関係を、結婚などを経て社会にも認めさせていく段階。ここは離婚などしなければ一生続く、とても長い段階だ。

3つ目の観点は、「どちらか一方だけが与え、相手は受け取るだけの共依存に陥らないために、お互いが想いを高め合う必要がある」という理論だ。

「恋に恋する」とはよく乙女の修飾語として用いられるが、これは「相手の気持ちに関係なく恋にのめり込みたい」という欲求を表している。それが行き過ぎれば一方的なストーカーだし、そのままと恋愛関係が成立しても下図のような、一方だけがのめり込む状態になり、長続きしな

い可能性が高い。



長続きさせたいければ、互いに想いの強さを確認しながら、足並みを揃えて引っ張り合う関係に改善するのが理想だ。そのためには契約や相談、我慢や調整の他、互いの意見をぶつけ合わせる粘り強い交渉も必要だろう。

逆にサプライズやロマンスはむしろ、邪魔になる場合も多い。

つまりものすごく卑近に例えると「旦那が金時計を売る前に、妻はちゃんと髪を切る相談をしろ」って話だ。だっていちいち旦那が食材を買ったら妻が鍋を売ってたり、妻が家具を買ったら今度は旦那が家を買ってたりしたら、ロマンスはありあまっても生活は破たんするでしょう？

旦那は原発を吹き飛ばしたのに妻はウラン燃料を買うのをやめられない、とかもね。

つまりSNSで個人情報ダダ漏れだとか、ゲームやら恋愛やらに自分本位で依存してる人も結局は、のめり込んでる労力に比べてリターンがどんだけあるのか、バランスが取れてないって話にまとまる。

もちろん、仕事として金を稼ぐために一日中モニター画面見てる人は、社会的に依存とは言われない。のめり込む労力とリターンのバランスが取れてるからだ。

ここで改めて思うのは、明確な契約社会であればあるほど甘えや依存度は減るだろうけど、同時にロマンスも減るな、ってこと。

例えば大リーグで今、日本人メジャー選手の契約がちょっと問題になってるけど、契約社会のアメリカでは権利のぶつかり合いが基本なのに、そこに日本人が分別とか自粛とか世間体を持ち込んだから、違和感が生じたってことだろう。

逆に言えば、ロマンスをありあまらせるために必要なのは、その場しのぎの口約束であり、表面的なサプライズであり、お互いだけの秘め事だ。ただそれは関係を良好に長続きさせるために必要な、つまらない契約やギスギスした交渉とは真逆の物だろう。

もちろん、BUMP OF CHICKENの『ever lasting lay』みたいに、たとえ嘘であってもお互い必死で生涯信じ切れるなら素敵だけど。信じられる要素なんてなくても、おまじないの様にね。

今回は焼き直しだからスラスラ書けた。理想的な恋愛曲線はある意味、DNAの二重らせんのよ

うな、人と人が交わって絡み合うような、そんな感じがいい感じにまとまった感じがした。
さて、どうかな？



考えるウマシカ～第三十一回 『アイネクライネ』と台湾事情～

<http://p.booklog.jp/book/104931>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/104931>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/104931>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ